

屋島北嶺再整備について

平成29年7月

中国四国地方環境事務所

1. 瀬戸内海国立公園、屋島集団施設地区 概要



【瀬戸内海国立公園の概要】

- ・S.9.3.16 備讃瀬戸地域を中心に我が国最初の国立公園の一つとして指定
- ・大小1,000あまりに及ぶ島々で形成された内海多島海景観及び瀬戸景観が最大の特徴
- ・公園面積：陸域 66,934ha
海域 837,541ha

【屋島集団施設地区の概要】

- ・溶岩台地(メサ地形)として特異な地形景観を呈し、瀬戸内海が多島海景観に優れる特徴
- ・高松市市街地に近接し、人文景観も豊富なことから、展望等の利用拠点として集団施設地区に指定
- ・集団施設地区面積 43.6ha
- ・所管地面積 13.6ha(北嶺13.6ha、南嶺0.05ha)

2. 屋島北嶺再整備全体計画

○ これまでの経緯

- ・平成23年度 屋島会議開催、屋島の持続性ある活性化に向けた基本構想の検討開始
- ・平成24年度 「屋島活性化基本構想」(平成25年1月、高松市)策定



この中で、屋島活性化に向けて実行すべき施策・事業が定められ、44事業への取り組みを開始



44事業のうち、

No.33 「便益施設の整備」

： 来訪者が心地よく滞在できる受け皿づくりとして、案内版、休憩所、トイレ等を整備

No.34 「北嶺の利活用」

： 北嶺一体を顕在化し、景観ポイント等の発掘等により、来訪者が歩いて楽しめる環境を段階的に整備



この2事業を受け、環境省において屋島における施設の再整備計画を策定

「屋島集団施設地区再整備基本計画」(平成26年度)

【コンセプト】



【屋島再整備方針】

- 屋島の魅力ある資源の顕在化
- 資源を見せるための施設
- 利用者が歩いて楽しめる施設
- 利用者の安全性、利便性向上のための施設

○ 北嶺再整備の目的と整備目標

北嶺再整備では、現状の問題点解消と魅力ある資源を保全しつつ最大限の活用を図るため、利用者の視点に立った整備を行うことで、北嶺利用者数の増加を目指す。このため、以下の整備目標を設定する。

■ 屋島全体利用者数

現状：約47万人/年(直近5ヶ年平均) ➡ 目標：70万人/年(高松市「まちづくり戦略計画」より平成30年目標)

■ 北嶺利用者数

現状：約1.8万人/年 (H23～H27北嶺登山者カウンター計測値より)



目標：屋島北嶺の魅力ある資源を“見せる”再整備により、現状より50%増の約2.7万人/年
(屋島全体の利用者増加目標値から設定)

■ 再整備施設規模

現状：平均10.2～87.2人/日、最大352人/日 ➡ 目標：平均130.8人/日、最大528人/日

○ 目標達成のための北嶺再整備方針

再整備対象施設	再整備方針
① 北嶺エントランス	北嶺連絡道入口の視認、資源紹介等による北嶺誘導のための整備
② 北嶺連絡道・北嶺周回路	安全性向上、休憩場・資源情報提供等により利用者を飽きさせない整備
③ 展望台	展望台新設により眺望の回復、休憩場及び情報提供のための整備
④ 千間広場及び林内歩道	老朽施設改築等による安全性・利用性向上、休憩場提供のための整備
⑤ 便益施設	利便性向上のための休憩所への上水道及び電力供給を行うための整備
⑥ 標識類	見て歩いて楽しむための資源紹介、インバウンド対応した標識・道標等整備

